

入学者の言語的背景の多様化に大学は対応できるか：中国語のコースを例として

山崎直樹（関西大学）

日本英語教育学会第43回年次研究集会

2013年3月17日

早稲田大学（早稲田キャンパス）

以下のスライドで、この色のボックスに入っているのは口頭で補った文言です

自己紹介 — 職場

中国語を教えています（関西大学外国語学部）

- 第2外国語の中国語
- 中国語専攻生への中国語

←どちらもやっています

自己紹介 — 活動

『外国語教育のめやす2012—高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』

- 広報担当
- 研修

『めやす』を世に広めるべく、広報をかって出しています。
また、『めやす』に基づいた授業設計のための研修も手伝っています

中国語教育をめぐる 高校教員と大学教員のいさかい

高校（800校以上で開設？）側の言い分

- 高校でやったことを生かしてくれない
- 大学の中国語の授業に出たら下手になった

このような苦言をじっさいに聞きました

大学側の言い分

- ・ 高校でちょっとやったかもしれないが、もういちど**基礎**をきちんとやり直したほうがよい
- ・ 高校で**中途半端にやった**中国語はじゃまになる

このような発言をじっさいに聞きました。
赤字は「未定義語」です。中国語教育に即して考えると、これらに関する同意はありません。

アウトライン(1)

発端

- 高校教員と大学教員の対立

前提

- 高校の中国語と大学の中国語
- 中国語のめんどうな点

典型的な学習者

- 大学が想定する学生の言語背景のモデル
- 大学が採用していた外国語能力のモデル
- 指導要領～センター試験

アウトライン(2)

Standards Based Approach

- CEFRはソリューションたりうるか？
- 『外国語学習のめやす』とは何か

教育モデルの再検討

- 既存の教育モデルでは手に負えない
- 新しい教育モデルの必要性

高校の中国語教育と大学の中国語教育

高校（専門のコースではないところ）

- 少人数
- 典型例: 週1～2回の授業、1年間
- 大学進学と関係ないところで盛ん

このような例が大多数を占めると思います。

大学（第2外国語）

- 第2外国語として広く採用されている

実施形態は説明するまでもないでしょう。

第2外国語の単位数は何を意味するか

- (A) 0から始めて*単位分の能力の向上を目指す → 検定試験の成果に拠る単位認定
- (B) どの能力のどの段階からでも、*単位分の能力の向上を目指す → 初級クラスのスキップ

【結論】

大学の第2外国語教育において「単位数」の 位置づけが不明確

上述の(A)(B)双方のパターン（ポリシーとしては相反するはず）を実施している大学もある。

中国語のめんどうな点

あるていど中国語の音声に習熟しないと単語レベルでの意思疎通も難しい

音韻体系を習得させるのに手間がかかる
(300の音節×4つのトーン)

水面に顔を出すまでの時間は言語によって異なる



b, p, m, f, d, t, n, l, g, k, h, j, q, x, zh,
ch, sh, r, z, c, s

声母

×

a, o, e, i, u, ü

韻母

ai, ei, ao, ou, ia, ie, ua, uo, üe

iao, iou, uai, uei

an, ang, en, eng, in, ing, ün, ong,

ian, iang, uan, uang, uen, ueng, iong

中国語は日本語とかなり距離のある
音韻体系をもつ

2つのやりかた

- (a) 声母と韻母をすべて導入してから、コンテンツに
- (b) コンテンツを学習しながら、声母と韻母を順次導入

(a)の方式は、鳥の先祖に「飛べない翼でもがまんしてもっておけ」と言って聞かせるのに似ている（ほんとうは他の用途があったはず）。

【結論】 そりゃ、ちがうでしょ？

コース全体の目標と使えるコストから考えたバランスの問題（例: 3千円のディナーと6千円のそれでは、前菜もちがう）



大学が想定する学生の言語背景のモデル

「この国の多数派」の言語モデル

「日本人」の多数派の背景モデル

- 第1言語は日本語
- 家庭、地域、学校の使用言語も日本語
- 学校に行くようになり「外国語」として英語を
- 大学で英語以外の言語を0から

その秩序を乱すもの

- 大学入学者の言語的背景の多様化
 - 高校（までの学校）での英語以外の外国語の教育
 - 母語が日本語でない日本在住者の増加

大学は対応できていない

【証拠】

枚挙にいとまがありません。

大学が採用していた外国語能力のモデル

リニアで量的な言語能力モデル

- 1次元的な量で能力を示す
- 1次元的な量 = 学習量だったりする
- 各種検定試験 / 能力試験の能力記述

検定試験の各等級の基準記述には「どれだけ勉強したか」という量の記述が含まれている

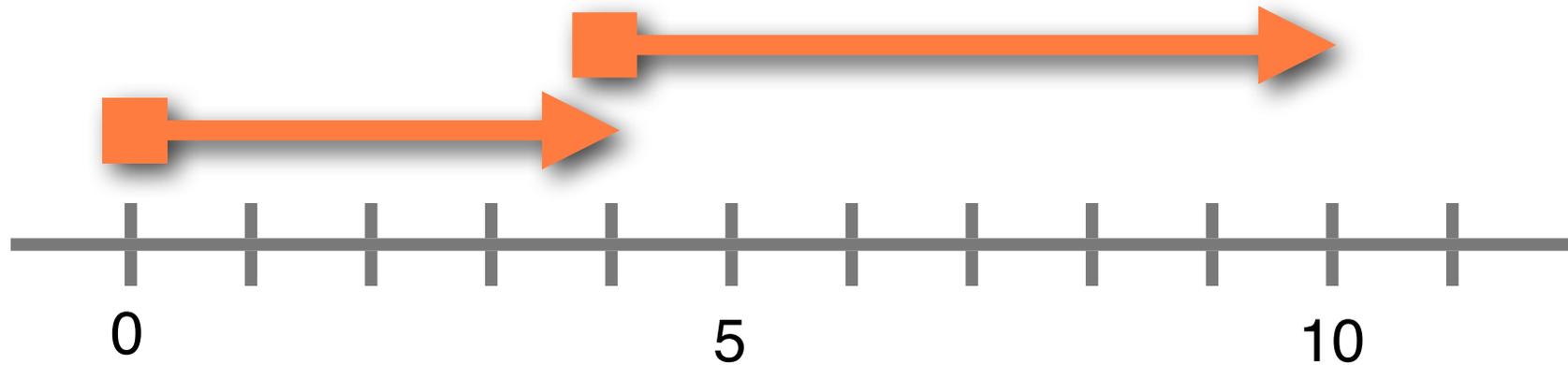
中国語検定試験（準4級）

- 中国語学習の準備完了
- 学習を進めていく上での基礎的知識を身につけていること。
- (学習時間60～120時間。一般大学の第二外国語における第一年度前期修了，高等学校における第一年度通年履修，中国語専門学校・講習会等において半年以上の学習程度。)
- 基本単語約500語（簡体字を正しく書けること），ピンイン（表音ローマ字）の読み方と綴り方，単文の基本文型，簡単な日常挨拶語約50～80。

新HSK（1級）

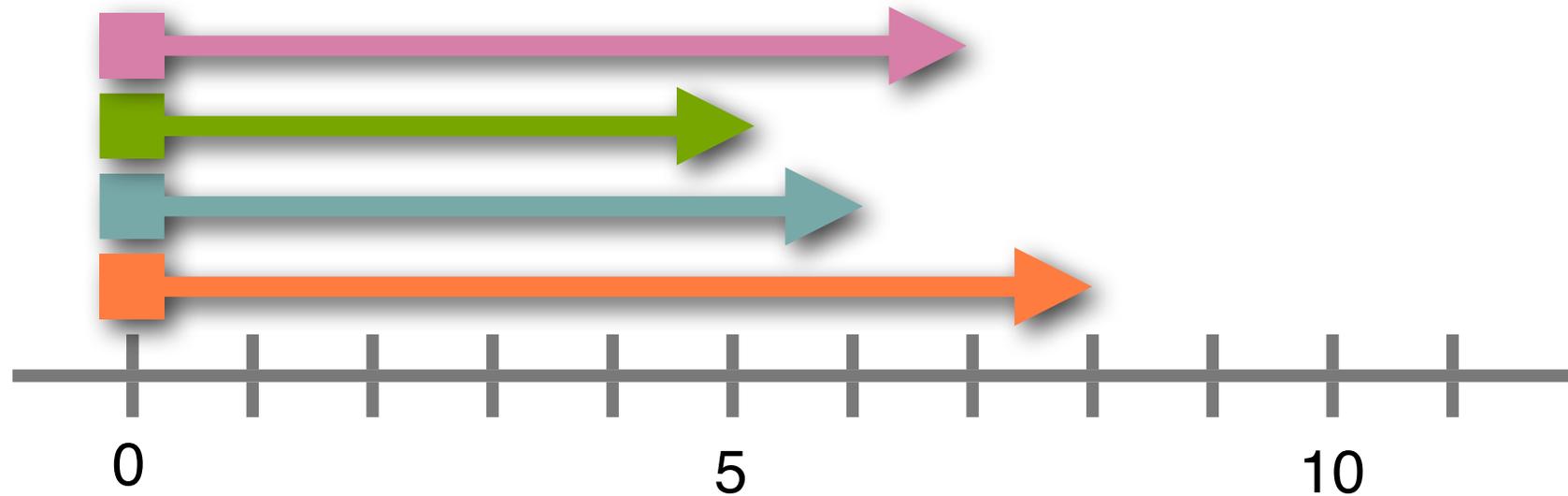
- 150語程度の基礎常用中国語及びそれに相応する文法知識
- 中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用。大学の第二外国語における第一年度前期履修程度。

リニアで量的な言語能力モデル



言語能力がこのモデルのようになっているとしたら、「異校種間の接続は何の問題もない。

複数の能力の存在を認めても、1次元的な量
であることに変わりない



余談ですが…

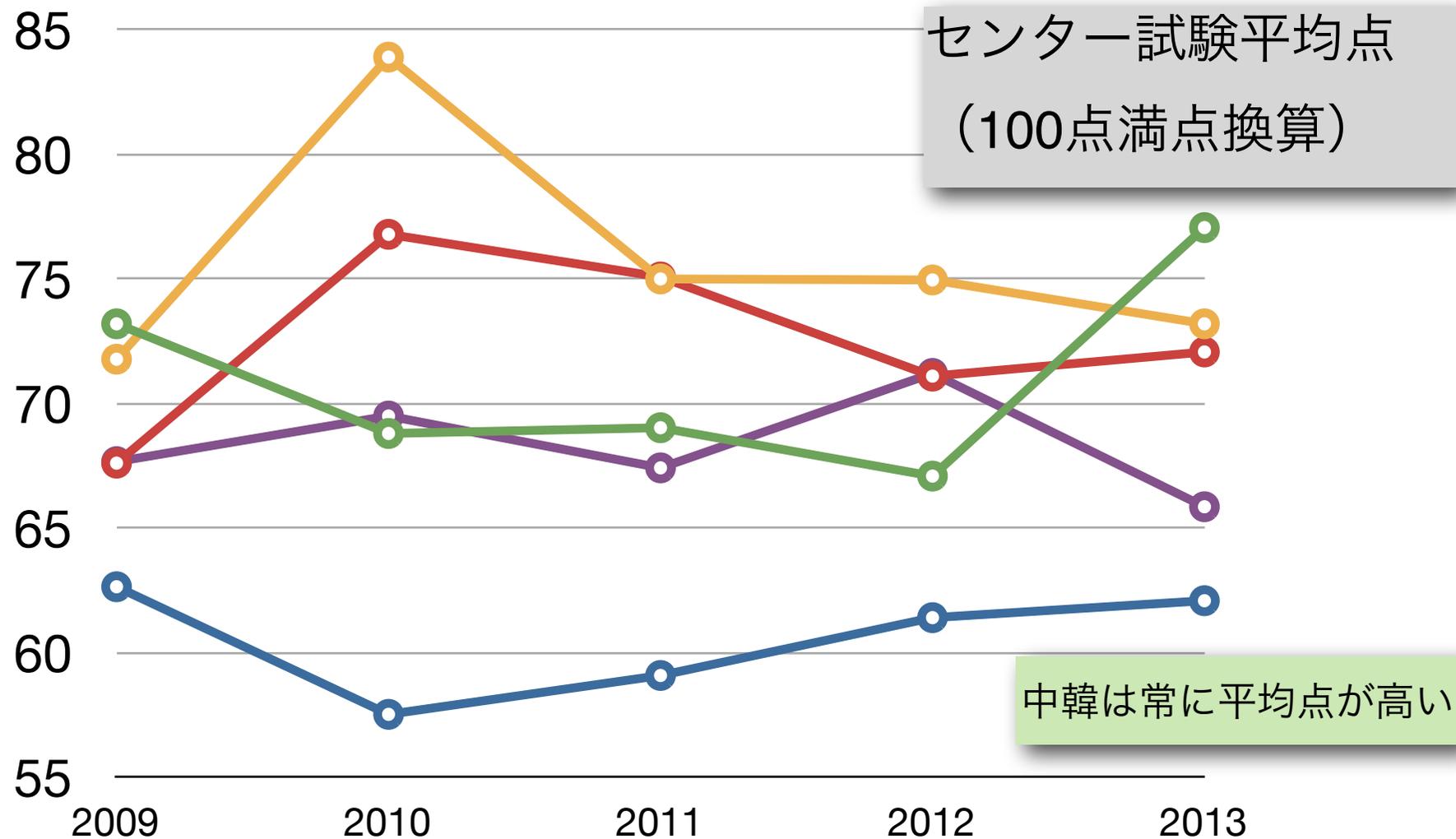
学習指導要領

- 英語以外の外国語の学習指導要領はなく「きちんと作れ」という人もいるけれど
 - 学習指導要領を作るには、単位数を決めねば → 高校によって事情がちがう
 - 大学入試に関係ない教科に時間を使いたくないという事情

学習指導要領を作ったら

- ・ センター試験はその範囲を超えられない

ところで、「センター試験」ですが



- 英語
- 中国語
- 韓国語
- ドイツ語
- フランス語

中韓は常にばらつきが少ない

センター試験

標準偏差（100点換算）

	2009	2010	2011	2012	2013
英語	19.64	18.77	19.98	20.62	21.02
中国語	17.99	18.50	19.88	19.05	18.99
韓国語	16.66	14.03	13.77	17.00	20.96
ドイツ語	25.52	22.34	22.52	24.20	25.13
フランス語	22.42	22.41	23.55	20.62	21.64

高校の授業の実態と乖離？

センター試験の読解問題に使われた文章

中国有句老话：“书不尽言，言不尽意”，意思是说，一部书上写的总要比写那部书的人的话少，他说的话总比他的意思少。一部书上写的总要简单一些，不能像他要说的话那样啰唆。这个缺点倒也许还有办法可以克服，只要他不怕啰唆就可以了。好在笔墨纸张都很便宜，文章写得啰唆一点儿只不过是多费一点儿笔墨纸张，那也不是缺不了的事。可是言不尽意那种困难，就没有法子克服了。因为语言总离不了概念，概念对于具体事物来说，总不会完全合适，不过是一个大概的轮廓。

センター試験の受験者の中心は、高校で外国語として勉強した人たちではないかも

(x_1, y_1)



多様な言語能力を評価するために新しい枠組みが必要だと思ったんですが...

CEFRはソリューションたりうるか？

CEFRはソリューションたりうるか？

- Can do 記述だったら、能力のさまざまなベクタを適切に評価できるか？
 - 欧州という地域の事情が背景
 - 学校教育用のスタンダードにするためには何が必要か？

『外国語学習のめやす2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』

こちらのほうが日本の学校の教育の現場にもちこみやすい。



『めやす』の理念

多様なことばと文化を学ぶことをとおして、
学習者の人間的成長を促し、21世紀のグロー
バル社会に生きる力を育てる

『めやす』の特徴

- 総合的コミュニケーション能力
- $3 \times 3 + 3$ のキーコンセプト

言語

文化

グローバル社会



言語

わかる

自他の言語がわかる

できる

学習対象言語を運用できる

つながる

学習対象言語を使って他者とつながる

文化

わかる

自他の文化がわかる

できる

多様な文化を運用できる

つながる

多様な文化的背景をもつ人とつながる

わかる

グローバル
社会の
特徴や課
題がわか
る

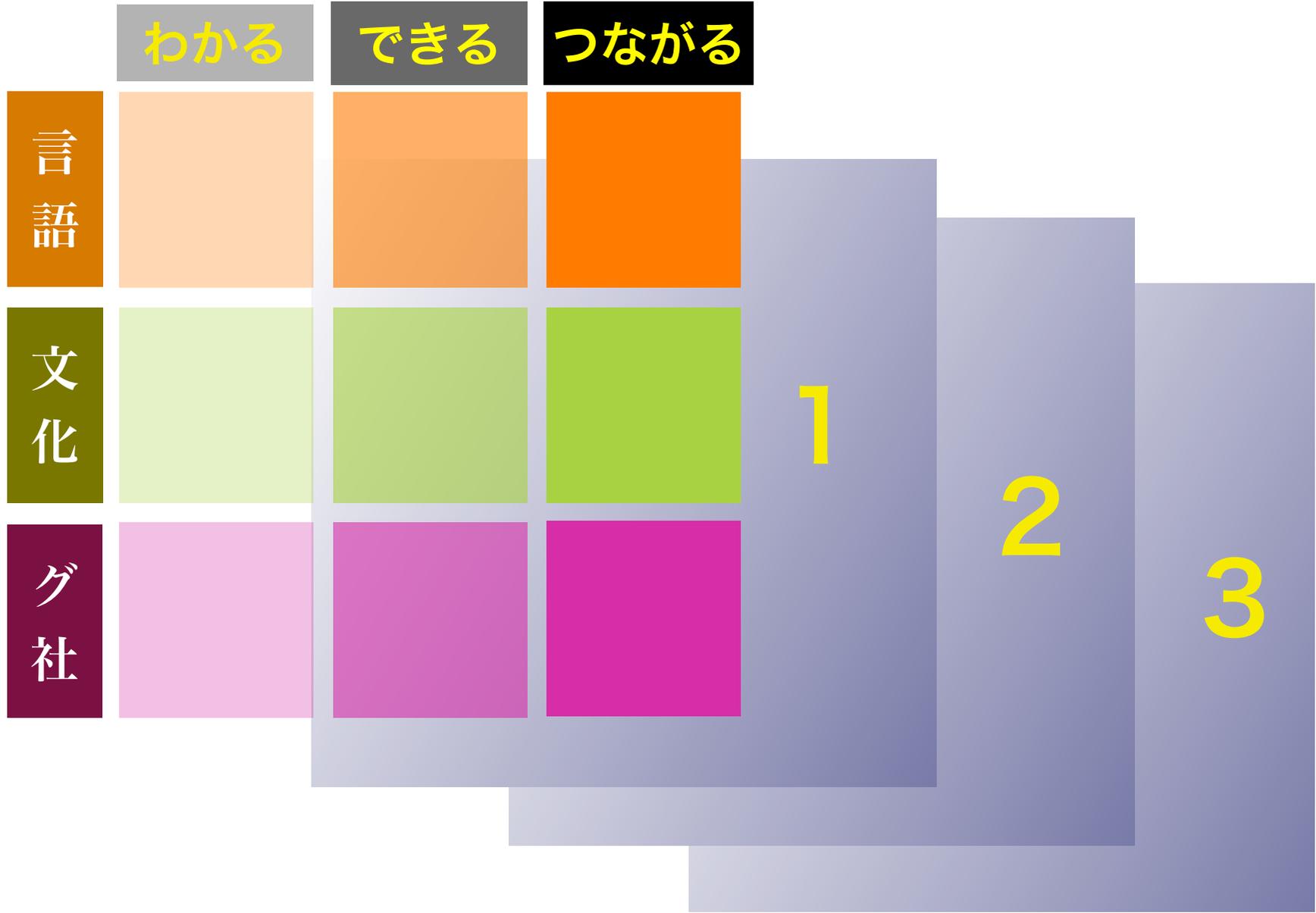
グローバル社会

できる

21世紀
スキルを
運用でき
る
協働
高度思考
情報活用

つながる

グローバ
ル社会と
つながる



わかる

できる

つながる

言語

文化

グ
社

関心・意欲・
態度・
学習スタイル

わかる

できる

つながる

言語

文化

グ
社

既習内容や
経験

わかる

できる

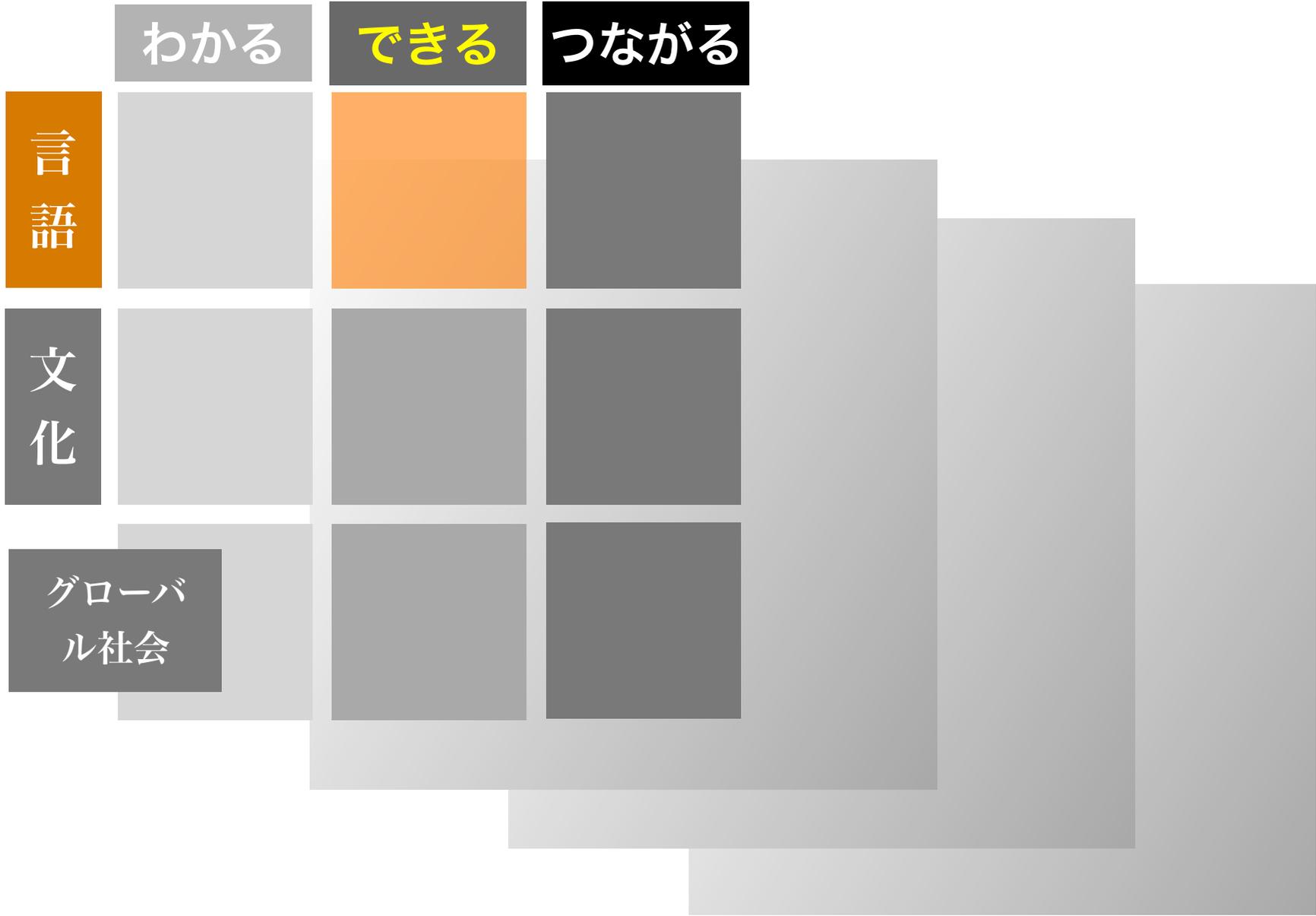
つながる

言語

文化

グ
社

他教科の内容
教室外の
現実社会



言語能力の指標

- ・ 高校生が最も関心をもちそうだと考えられる**15の話題分野**
- ・ 分野それぞれに、**レベル1からレベル4**までの**指標**

【15の話題分野と内容】

自分と身近な人びと／自分に関する話題、友だちや家族など身近な人、ペットの話題等

学校生活／自分が所属する学校の様子や学校での生活に関する話題

日常生活／学校の時間以外のふだんの生活に関する話題

食／食べ物の好き嫌いや食事の習慣など、食生活に関する話題

衣とファッション／服やアクセサリー、化粧などに関する話題

住まい／家に関する話題

からだと健康／からだの部位や特徴、健康などに関する話題

趣味と遊び／放課後や休日、アルバイト、趣味などに関する話題

買い物／実際の買い物場面、買い物行動に関する話題

交通と旅行／町の様子や通学などに利用する交通機関に関する話題

人とのつきあい／日常のあいさつなど

行事／年中行事や個人・家族に関する記念日などの話題

地域社会と世界／地理・歴史・時事問題などに関する知識についての話題

自然環境／四季や天気に関する簡単なあいさつ、気候に関する話題

ことば／母語と外国語に関する話題、簡単なあいさつを含む

例: 日常生活

L1: 5つの指標

L2: 5つの指標

L3: 6つの指標

L4: 3つの指標

例: 日常生活

L1:

- 1日の生活の基本的な挨拶ができる
- 1日の生活（何時に何をするか）について、会話できる。

(※1例です)

L2:

- 日常の生活行動（1日単位または1週間単位）について、その頻度や時間の長さなどを含めて、口頭で紹介しあうことができる。
- 日常生活の様子（忙しい、楽しいなど）について、会話できる。

(※1例です)

L3:

- 毎日の生活における自分なりの過ごし方や工夫について、会話ができる。
- 身近な人（家族や友人など）と普段どのように過ごしているかについて、短いエッセーを書くことができる。

(※1例です)

L4:

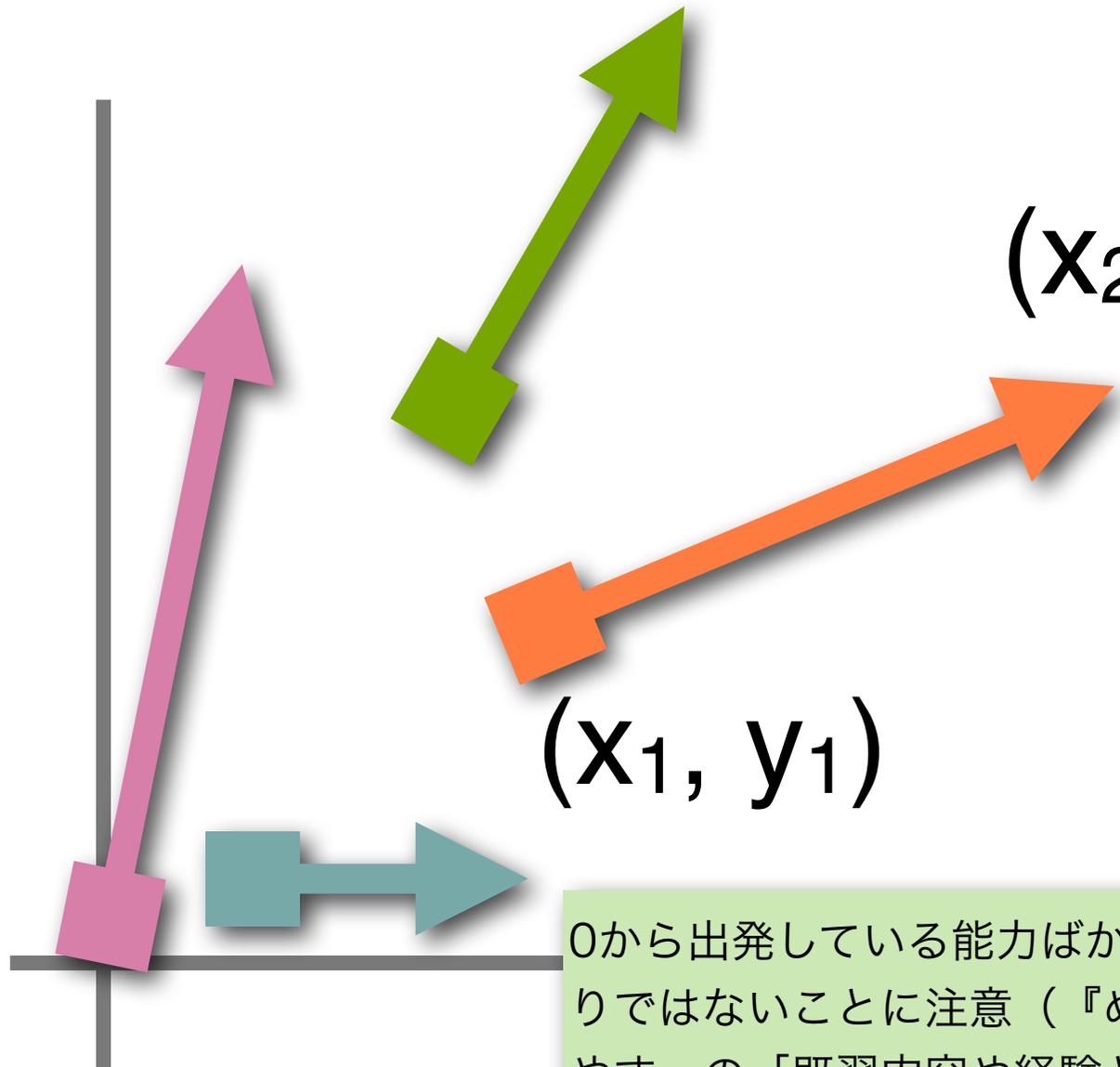
- 困っていること、悩んでいること、不満に思っていることなどを打ち明けたり、聞いてあげることができる。
- いろいろな人のライフスタイルについての記事を読んだり番組を見たりして、そこから学んだことを話しあうことができる。

(※1例です)

言語運用能力指標（レベル1）

- 自分が想定している範囲で、基本的な言い回しを使って、相手の協力が得られれば簡単なやりとりが…
- 自分にとって身近な事柄について、短い語句や文で…
- よく耳にしたり目にしたりする語句や文のうち、ごく基本的なものを理解…

話をもとに戻して.....



(x_2, y_2)

こんなあちこちを向いたベクタのような応力をたとえ評価できたとしても、現在の教育モデルの中では、「接続」は難しい。

(x_1, y_1)

0から出発している能力ばかりではないことに注意（『めやす』の「既習内容や経験とつながる」を参照）

たとえ評価できたとしても...

中国語教育において中等教育から高等教育への
接続は可能か

既存の教育モデルでは手に負えない

現在の学校教育の形態では無理

- 同一の教科内容
- 同一の目標
- 教室での一斉授業
- GPAなどのための相対評価

現在の学校教育の形態は産業革命のころの教育モデル

工場での大量生産を支える均質で従順な労働者の効率的な養成

當作靖彦先生のお話しに拠る
(A・トフラーの指摘?)

新しい教育モデルの必要性

よりよい外国語教育のありかたを模索していたら、現在の教育モデルを否定してしまうことになりました.....

おわり